星の花が降るころに (1)

安東 みきえ

銀木犀の花は甘い香りで、白く小さな星の形をしている。そして雪が降るように音もなく落ちてくる。去年の秋、夏実と二人で木の真下に立ち、花が散るのを長いこと見上げていた。気がつくと、地面が白い星形でいっぱいになっていた。これじゃふめない、これじゃもう動けない、と夏実は幹に体を寄せ、二人で木に閉じ込められた、そう言って笑った。

――ガタン！

びっくりした。①去年のことをぼんやり思い出していたら、机にいきなり戸部君がぶつかってきた。戸部君は振り返ると、後ろの男子に向かってどなった。

「やめろよ。押すなよなあ。俺がわざとぶつかったみたいだろ。」

自習時間が終わり、昼休みに入った教室はがやがやしていた。

私は戸部君をにらんだ。

「なんか用？」

「宿題をきこうと思って来たんだよ。そしたらあいつらがいきなり押してきて。」

（中略）

「わかんないよ。そんなの自分で考えなよ。」

隣の教室の授業も終わったらしく、椅子を引く音がガタガタと聞こえてきた。私は戸部君を押しのけるようにして立ち上がると廊下に向かった。

②戸部君に関わり合っている暇はない。今日こそは仲直りをすると決めてきたのだ。はられたポスターや掲示を眺めるふりをしながら、廊下で夏実が出てくるのを待った。

人物同士の関係の変化

文学的文章では、場面ごとに登場人物同士の関係が変化する。本文では、回想（過去を思い返すこと）の場面と現在で、「私」と夏実の関係が変化している。

確認テスト

本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) 本文は回想の場面から始まり、途中で現在の場面になっている。回想の場面の最後の五字を書きぬきなさい。ただし句読点も字数に含む。

□□□□□

(2) ――線①「去年のことをぼんやり思い出していた」とあるが、この場面で、「私」がいる場所を本文中から二字で書きぬきなさい。

□□

(3) ――線②「戸部君に関わり合っている暇はない」とあるが、これはなぜか。適当なものを選びなさい。

ア 夏実と一緒に昼休みを過ごす約束をしているから。
イ これから自分も宿題をしようと思っているから。
ウ 今日は夏実と仲直りをしようと思っているから。

［　　］

(4) 本文から読み取れる登場人物同士の関係として適当なものを選びなさい。

ア 去年の秋まで「私」と戸部君は同じクラスで、親友といえる関係だった。
イ 現在では「私」と戸部君は同じクラスだが、あまり顔なじみといえる関係ではない。
ウ 去年の秋には、「私」と夏実は仲が良かったが、現在では互いに不信感を持っている。
エ 去年の秋には、「私」と夏実は親密な関係だったが、現在では擦れ違いが生じている。

［　　］